

ナンセンスな絵本

雨が長引くと気持ちも少し落ち込みがちなこの季節。そんな時は奇想天外、ありえないような設定でお話が進む“ナンセンスな絵本”を開いてみるのはいかがでしょうか。今回はそんな気分転換にぴったりの作品たちをご紹介します。

1冊目は、おおたけしんろう/えとぶん『ジャリおじさん』です。

「はなのあたまにひげのあるジャリおじさんは」…から始まる変わった主人公のおはなし。作者は瀬戸内国際芸術祭でも作品展示している現代美術家の大竹伸朗です。

黄色い道を見つけたジャリおじさんは、歩いてみることにしました。あいさつはいつも「ジャリジャリ」。いろいろな人たちとすれ違いますが、誰に聞いてもこの道がどこへ続いていくのかわかりません。果たしてジャリおじさんは無事に目的を果たすことができるのでしょうか…。

ページの中には紙を切り貼りしたコラージュもありと、めくるたびカラフルな世界が広がるこの絵本。美術鑑賞をしている気分にもなれる作品です。

2冊目は、長新太/さく『つきよのかいじゅう』です。

独特なユーモアと絵のタッチで“ナンセンス絵本”を数多く生み出してきた長新太。今回はそのなかでも特に人気の高い一冊をご紹介します。

山奥にある深い湖で怪獣を10年も待ち続けてきた一人の男。ある夜、ついに願った瞬間がやってきます。男はどんな怪獣だろうかと想像をあれこれ巡らせながら夢中でシャッターを切りますが、なんとでできたのは…！！予想だにしていなかった展開に思わず笑ってしまうこと必至。夜の静けさが際立つ世界観とのギャップが、さらに不思議な魅力を醸し出しており、まさにナンセンスな一冊です。

3冊目は、キューライス/さく え『あばれネコ』です。

最後は無心で楽しめる絵本をご紹介しますと思います。ある日、本を読んでいた男の子の部屋に突然ネコが「ガララー！」と窓を開けて入ってきました。ネコはやりたい放題に暴れ回ります。カーテンにぶら下がっては「バサバサバサー！」、ベッドのまぐらにネコパンチを「バフバフバフバフー！」。タンバリンを叩いては「シャンシャンタカタカシャンタカタン！」ネコの暴れっぷりに驚きながらも、だんだんとその音の響きがクセになってきます。勢いのあるストーリー展開とともに言葉遊びも楽しめますので、お子さんと一緒に読んでも面白いかもしれませんね。

図書館には他にもナンセンスで楽しい絵本がたくさんあります。ぜひ読んでみてくださいね。